

(様式例)

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛驒特別支援学校

学校番号	119
------	-----

自己評価

学校教育目標	「ひとりだちのできる子」の育成（自立と社会参加の力を育てる） （思いを伝える 自分も仲間も大切にしたい自分を目指す） ・生活自立（基本的な生活習慣の確立・基礎体力の向上・基礎学力の定着） ・社会自立（情緒のコントロール・コミュニケーションスキルの獲得・規範意識や危険回避能力の育成） ・職業自立（自己理解と行動の調整・働くことの意義や役割の理解・職業に対する理解や実際的な知識・技能・態度の習得）
--------	--

評価する領域・分野	「学校教育活動の周知」（教育活動、保護者・地域連携、情報提供）
現状及びアンケートの結果分析等	・様々な方の学校見学の実施や、交流の相手校へ理解啓発を行い当校の授業内容を活かした交流を行ったりして、実際の学習の様子やがんばりを伝えることに重点を置いた。また、作品展や写真展ではどのような目的で取り組んでいるかの説明をつけ、学習活動についてより理解を深めることに取り組み、アンケートでは高い評価をいただいた。地域の学校に向けた特別支援教育の視点や手立ての発信については、さらに充実させていく必要がある
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・実際に児童生徒の学習活動の様子を見学し、目的や支援の方法等を説明することで理解を深める。 ・地域に向けて、当校の教育活動について発信する。 ・学校間の交流を通して、児童生徒や教育活動に対する理解を深める。 ・市内の小・中・高等学校へ見学の機会を案内したり訪問を行ったりして、特別支援教育への理解を深める。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学習活動の見学：教務部、進路支援部、小・中・高各部 ・地域に向けた情報発信：学習支援部、進路支援部、管理職 ・関係機関との連携、地域資源の活用：渉外部、小・中・高各部 ・実際に交流し関わる機会の設定：進路支援部、小・中・高各部 ・特別支援教育への理解啓発：地域支援部、研究研修部、小・中・高各部
目標の達成に必要な具体的取組	・当校の授業内容や児童生徒の実態を知ってもらうための学校見学 ・作業製品の販売会 ・写真展、作品展における学校の教育内容や目的の周知 ・学校ホームページを利用した、学習活動の情報発信 ・活動内容だけでなく、取組の目的とそれに対する児童生徒の姿を載せた通信の作成、配付やHPでの発信 ・学校間交流で日常の授業内容や児童生徒の取組について理解を図る ・地域の学校への訪問支援や特別支援教育講座や教材教具展の案内を通して特別支援教育に対する理解啓発を図る
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校評価アンケートの内容 ・児童生徒の目標に対する評価 ・懇談時の保護者からの意見
取組状況・実践内容等	・様々な方の、学校見学があった。高等部の生徒が自分たちの学習について見学者に説明をする場面を設けた。また、見学の前後に、当校の教育活動についての説明や、質疑応答を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めて、地域の文化祭で作業製品の販売会を行い、製品の質の良さを知っていただくことができた。 ・写真展や作品展では、開催前に商業施設でPRを行い、多くの方に開催を知っていただくことができた。 ・交流する相手校の児童生徒に向けて、当校の紹介や児童生徒の理解を進める説明を行った。登校の学習活動を高校生が体験するという交流を行うことができた。 ・コーディネーターが地域の小中学校へ訪問支援に行く際には、対象の児童生徒の困り感に応じて教材教具を紹介し、小中学校での支援に活かすことができた。
評価の視点	評価
<p>当校の教育活動をより深く知っていただくため、学校見学や写真展・作品展の説明の添付や作業製品の販売会の機会を設けることができたか。</p> <p>交流する学校の児童生徒への理解啓発や交流内容の工夫をすることができたか。</p> <p>特別支援教育の考え方や手立ての発信について、十分に行うことができたか。</p> <p>A 十分達成した、B おおむね達成した、C やや不十分、D 不十分</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A B Ⓒ D</p>
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学では、生徒自らが説明をしたことで、生徒の姿をより知っていただくことができた。また、見学の前後に質疑応答を行うことで、実際に見えない部分も知っていただいたり理解を深めたりすることができ、地域への理解が広がった。 ・製品の販売会では、生徒が作る製品の質の高さに触れることで、生徒の力を知っていただくことにつながった。 ・作品展示では、多くの方が訪れる場所でのPRについては知っていただく機会が増えたと考えるが、QRコードを利用した感想の入力がされず、展示の効果が把握できなかった。 	A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々や学校の教員へ、学校見学を呼び掛けていく。 ・コーディネーターを中心に、特別支援教育の考え方や手立てを、地域の学校へ伝えていく。 ・製品の販売の目的と、それに合った場所や時期について検討していく。 ・写真展、作品展の場所と目的に合わせて内容を工夫する。

学校関係者評価 (令和 6年12月16日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への周知として、HPを見やすくするとよい。更新されていることがわかるようにしたり、本校と分校のHPをリンクさせたりしてはどうか。 ・居住地校交流では、地域に知ってもらおうということを考えると、通常学級との交流や全校に知ってもらえるような掲示などができるとよい。 ・作品展、写真展の宣伝に、ホームページを活用するとよい。 ・地域に、学校のことを知ってもらうことは将来を見据えた時に保護者の安心感となる。 ・特別支援教育の考え方や手立て等を地域の学校にむけ、専門性を発揮してほしい。 ・学校が新たに挑戦しようとする姿が素晴らしい、子どもたちも教員の挑戦を見ている。保護者も嬉しいと思う。 ・分校の立地場所から知らない人も多いと思う。本校の行事等をきっかけに分校のことを知ってもらえるとよい。 ・委託作業の割りばしや景品等の裏に、教育活動の周知になるようなシールを張ってもらう方法がある。
